

# 韓国語の ul/lul 格連続現象について

## — 日本語のヲ格連続現象との対照 —

文 智 暎

### 1. はじめに

日本語のヲ格に対応する韓国語は ul/lul 格である<sup>1</sup>。日本語における、いわゆる「二重ヲ格制約」は従来単文だけの制約であると言われてきたが、文 2005a, b では、それは単文だけに当てはまる制約ではなく、複文であってもヲ格連続が避けられる傾向があることを明らかにした。

一方、韓国語では、日本語に比べ、ul/lul 格連続が比較的自由に現れると言われている。例えば、韓国語では、次のような例文は許容されると言われてきた。

- (1) 할머니는 나를 손을 잡았다. (任 1998)  
(直訳：おばあさんは私を手を握った)
- (2) 그는 국적을 박탈을 당했다. (任 1998)  
(直訳：彼は国籍を剥奪をされた)
- (3) 나는 그를 선물을 주었다. (任 1998)  
(直訳：私は彼をプレゼントをあげた)

ところが、韓国語母語話者 52 人に次のような質問をし、文を完成させるよう求めたところ、先行研究の予測とは異なる結果が得られた。

●質問：次の文を完成させてください。

- (a) 비속을 영희를 (雨の中をヨンヒを)
- (b) 철수를 얼굴을 (チョルスを顔を)

(a) は回答者の 27% が文を完成させたが、すべて複文であった。(b) は 23% が文を完成させ、そのうち 2 例が並列で他はすべて複文であった。韓国語では許容されるはずの単文中の ul/lul 格連続が一例も出なかったのはなぜであろうか。

従来、韓国語では ul/lul 格連続が許容されると言われてきた。本稿では、実際 ul/lul 格連続が抵抗感なく自由に使われるのかどうかについて、コーパスの分析を通して考察する。

## 2. 先行研究の検討及びアンケート調査

### 2.1 先行研究の検討

まず、韓国語の二重 ul/lul 格に関する従来の研究を概観する。

韓国語では単文中の ul/lul 格連続が許容されるという前提で、研究が進んでいる。代表的な研究として、任洪彬 1979、1998、李琬鎬 1988、徐경수 1996、成光秀 1999 などが挙げられる。

徐 1996 では二重目的格の文を [1] 大小関係類型 [2] 副詞語代置類型 [3] 数量詞関係類型 [4] 与格類型 [5] hada (하다) 及び同族目的語類型<sup>2</sup>の五つのタイプに分類している。任洪彬 1979、1998、李琬鎬 1988 も ul/lul 格連続に詳しいが、上記のようなタイプ分けは大きく変わらないので、以下、徐 1996 の分類を中心に見ていく。

まず、[1]大小関係類型は、「N1-ul」と「N2-ul」が「全体」と「部分」の関係を示すタイプであり、このタイプは(5)のように「N1-ul」を所有格の「N1-ui (의)」に置き換えることができる。

- (4) 여자가 남자를 등을 쳤다. (徐 1996)  
(直訳：女が男を背中を叩いた)
- (5) 여자가 남자의 등을 쳤다. (徐 1996)  
(直訳：女が男の背中を叩いた)

[2] 副詞語代置類型とは、N2 が副詞句に変わるもので、副詞語は日本語の付加詞に相当する。このタイプは、(7)に示すように「N2-ul」を「N2-lo (로)」に置き換えることができる。

- (6) 그는 포도를 술을 만들었다. (徐 1996)  
(直訳：彼はぶどうをお酒を造った)
- (7) 그는 포도로 술을 만들었다. (徐 1996)  
(直訳：彼はぶどうでお酒を造った)

例文(6)は次の(8)のように言いかえることもできる。

- (8) 그는 포도로 술을 만들었다  
(直訳：彼はぶどうでお酒を作った)

(7)の「-lo (로)」は、生産物を表しているが、(8)では道具を表している。

[3] 数量詞関係類型は N2 が数量を表す名詞句を ul/lul 格として取り、ul/lul 格連続になるタイプである。また、片方の「-ul」を省略することができる<sup>3</sup>。

(9) 아이가 고기를 열마리를 잡았다. (徐 1996)

(直訳：子供が魚を 10 匹を捕った)

(10) 아이가 고기를 열마리 잡았다.

(直訳：子供が魚を 10 匹捕った)

続いて、[4] と格類型は、「N1-ul」を与格の「N1-ege (에게)」に置き換えることができるタイプである。動詞は「あげる/くれる」という意味の「ju-da (주다)」類である。

(11) 어머니가 아이를 젖을 주었다. (徐 1996)

(直訳：お母さんが赤ちゃんをお乳をあげた)

(12) 어머니가 아이에게 젖을 주었다. (徐 1996)

(直訳：お母さんが赤ちゃんにお乳をあげた)

[5] 'hada (하다)' 関連類型と同族目的語類型とは、日本語のサ変動詞に対応する hada 動詞が ul/lul 格を取るタイプと同族目的語を取るタイプである。このタイプでは、(14) (16) に示すように N2 が取る「-ul」は省略することができる。

(13) 그가 수학을 공부를 한다. (徐 1996)

(直訳：彼が数学を勉強をする)

(14) 그가 수학을 공부한다. (徐 1996)

(直訳：彼が数学を勉強する)

(15) 경애가 여류 비행사를 꿈을 꾸었다. (徐 1996)

(直訳：キョンエが女性飛行士を夢を見た)

(16) 경애가 여류비행사를 꿈꾸었다. (徐 1996)

(直訳：キョンエが女性飛行士を夢見た)

以上、徐 1996 を中心に韓国語の ul/lul 格連続について見た。

## 2.2 アンケート調査の概要及び問題の提起

徐 1996 の五つのタイプを中心に、韓国語母語話者を対象にして許容度を調査した。アンケート 1 では ul/lul 格が連続する文と連続しない文とを並べて許容度を調査し、アンケート 2 では、同じ意味の文で ul/lul 格が連続する文と連続しない文とが並ばないよう、例文をランダムに入れ換えて許容度を調査した。被験者は、アンケート 1 は韓国語母語話者 33 人 (大学生)、アンケート 2 は韓国語母語話者 31 人 (大学生) である。いずれも ul/lul 格連続文の許容度が非常に低いという結果が出た。

アンケート 3 では、韓国人母語話者 (大学生・院生) 19 人に対して、名詞句や動詞な

どをランダムに並べて提示し、その中で句または単語を選んで作文するように求めた。提示したのは、徐 1996 の二重 ul/lul 格の例文を基本パターンにして、少し変形を加えたものを提示し、被験者が ul/lul 格が連続する文を選ぶのか、それとも連続しない文を選ぶのかを調査した。例えば、以下のような問題である。

- (17) 아이를, 엄마는, 깎았다, 손톱을, 아이의, 손톱의  
(直訳：子供を、お母さんは、切った、爪を、子供の、爪の)  
→回答例：엄마는 아이의 손톱을 깎았다  
(直訳：お母さんは子どもの爪を切った)

アンケート 3 では、上記のような問題を 20 問提示したが、ul/lul 格連続が選択されたものは 1 例もなかった。

アンケート 4 では、徐 1996 で ul/lul 格連続文として提示されている例文を基本パターンとし、実例で見つかった例文も加え、助詞のところを空欄にして括弧を埋めるよう求めた。例えば、以下のように提示した。

- 次の ( ) の中に適当な言葉を入れてください。  
(18) 어머니는 칠수( ) 용돈( ) 주었다.  
(直訳：お母さんはチョルス ( ) お小遣い ( ) あげた)

アンケート 4 の被験者は韓国語母語話者 24 人 (大学生) であり、各々 34 問を質問した。アンケート調査の結果、以下の 3 例だけが ul/lul 格連続であった。

- (19) 그 두 인간( 을 ) 요절( 을 ) 내고 말겠다. : 2 人 (8%)  
(直訳：その二人 (ヲ) やっつけ (ヲ) してしまおう)  
(20) 범인의 집 주위( 를 ) 몇날몇일( 을 ) 잠복을 했다. : 1 人 (4%)  
(直訳：犯人の家のまわり (ヲ) 幾日幾日 (ヲ) 潜伏をした)  
(21) 계집애( 를 ) 교수( 를 ) 만들어 무얼합니까? : 1 人 (4%)  
(直訳：女の子 (ヲ) 教授 (ヲ) 作って何 (を) しますか?)

(19)~(21)の各例文は、すべてコーパスから取った例である。これらの例文を徐 1996 に照らし合わせてみよう。(19)は、「요절내다 (yojeolnaeda, やっつける)」という一つの動詞句内に「-ul」が入っており、「N2-ul + V (요절을+내다)」が「N1 (その二人)」を項とするという点から、徐の [5] ‘하다 (hada)’ 関連類型と同族目的語類型に分類するのが妥当であると考えられる。(20)は、「場所-ul」「時間-ul」「-ul hada」の三つの「-ul」が連続することになる。[3] 数量詞関係類型または [5] の ‘hada’ 関連類型に分類してよいであろう。(21)は、[2] 副詞語代置類型である。また、これらの問いに関して、回

答が2人(8%)、1人(4%)、1人(4%)で、非常に低いことが気になるところである。アンケート調査の詳しい内容及びその分析については別稿を準備している。

アンケート調査の結果から考えると、先行研究で指摘されているほど、韓国語母語話者はul/lul格連続を好まないのではないかという予測が立てられる。このことから、韓国語のul/lul格連続文を再検討する必要があると思われる。さらに、従来の研究では、コーパスの中のul/lul格連続の使用実態については殆ど触れていない。本稿では、韓国語のコーパスを通して、ul/lul格連続文の使用実態を明らかにする。

### 3. コーパスに見られる ul/lul 格連続

#### 3.1 考察の対象及び範囲

本節では、韓国語コーパスの中で、ul/lul格連続がどう現れているのかを見てみる。コーパスは「文化体育部と科学技術処の研究課題 国語情報処理基盤構築とSTEP2000のKAISTコーパス」(1997)を利用して、単文か複文かという文の構造を考えず、述部を挟まずにul/lul格名詞句が二つ以上連続する例文を採集した<sup>4</sup>。

#### 3.2 実例分類の結果

コーパスの中のul/lul格連続の実態を示すと次の【表1】のようになる。【表1】は、3.1節の方法で採集した例文を文のタイプによって分類したものである<sup>5</sup>。

【表1】韓国語のul/lul格連続文のタイプ

文のタイプ		例文	%
A	N1-ulN2-ulV	54	12%
B	[N1-ul [N2-ul V2] V1]	188	43%
C	[N1-ul[ [N2-ul V2]N3] V1]	65	15%
D	N1-ul[N2-ulV2] (la) ko V1	13	3%
E	N1-ulN2-ulV	116	27%
計		436	100%

文2005bでは、【表2】のような日本語のヲ格連続の使用実態をあげている。【表1】と比べてみたい。

【表 2】日本語のヲ格連続文のタイプ (文 2005b 改) <sup>6</sup>

文のタイプ		例文	%
A	N1ヲN2ヲV1	20	6%
B	[N1ヲ[N2ヲV2] V1]	200	59%
C	[N1ヲ[[N2ヲV2]N3] V1]	67	20%
D	[N1ヲ[N2ヲV2]とV1]	24	7%
E	N1ヲN2ヲV	29	8%
計		340	100%

Aタイプは、一つの動詞が「ul」を二つ取っており、いわゆる二重ul/lul格である。日本語のAタイプは6%であったが、韓国語の場合12%で、日本語を上回る。Bタイプは、連用修飾節を含む複文であるが、韓国語が43%、日本語が59%で、日本語の方がやや多いようである。Cタイプは、連体修飾節を含む複文で、韓国語が15%、日本語が20%である。Dタイプは引用節で韓国語は3%、日本語は7%である。Eタイプは、並列で、韓国語は27%、日本語は8%である<sup>7</sup>。以下、各タイプの例をあげる。

△ Aタイプ (N1-ul N2-ul V)

- (22) 윤성이의 말은 듣는 사람을 마음을 아프게 찔렀다.(소설 임오군란)  
(直訳：ユンシヨンの言葉は聞く人を心を痛く刺した)

△ Bタイプ [N1-ul [N2-ul V2] V1]

- (23) 철종의 선정을 입을 모아 칭송했다.(비에 젖은 남치맛자락)  
(直訳：哲宗の善政を口をそろえて称えた)

△ Cタイプ [N1-ul [[N2-ul V2]N3] V1]

- (24) 특히 정신분석학은 시, 소설, 희곡, 산문들을 그 작가의 내면을 파악하는 자료로 이용하는 방법을 암시하고 있다.(문학비평론)  
(直訳：特に精神分析学は詩、小説、戯曲、散文などをその作家の内面を把握する資料に利用する方法を暗示している)

△ Dタイプ [N1-ul [N2-ulV2]- (la) koV1] <sup>8</sup>

- (25) 에리어트가 문학의 기능을 이해와 향수를 촉진하는 일이라고 하였는데 (문학비평론)  
(直訳：エリエートが文学の機能を理解と郷愁を促進することであると云った…)

△ Eタイプ [N1, N2-ulV]

- (26) 그 가정을, 그 새끼들을 모르는 채 돌보지 않고(욕망의 성)  
(直訳：その家庭を、その子供たちを知らぬふりをして…)

#### 4. A タイプ：単文中の ul/lul 格連続

本節では、コーパス調査で得られた単文中の ul/lul 格連続を中心に韓国語の ul/lul 格連続の使用実態を調査した。韓国語の A タイプの N1、N2 の組み合わせを示すと次の【表 3】のようになる。

【表 3】 韓国語の A タイプ

N1 N2	対 象	相 手	所 有	場 所	時 間	材 料	そ の 他	計
対 象		4 ( 7%)	12 (22%)	1 (2%)	4 ( 7%)	2 (4%)	1 (2%)	24 ( 44%)
相 手	1 ( 2%)							1 ( 2%)
場 所					1 ( 2%)			1 ( 2%)
時 間	2 ( 4%)							2 ( 4%)
数量詞	3 ( 6%)							3 ( 6%)
hada <sup>10</sup>	13 (24%)	3 ( 6%)		2 (4%)	1 ( 2%)			19 (35%)
慣用句	2 ( 4%)			1 (2%)				3 ( 6%)
目 的	1 ( 2%)							1 ( 2%)
計	22 (41%)	7 (13%)	12 (22%)	4 (7%)	6 (11%)	2 (4%)	1 (2%)	54

日本語の A タイプは【表 4】のようになる。

【表 4】 日本語の A タイプ (文 2005b 改)

N1 N2	対 象	場 所	状 況	時 間	何 ヲ	トコロヲ	そ の 他	計
対 象		3 (15%)	1 ( 5%)	1 (5%)	2 (10%)	2 (10%)		9 ( 45%)
場 所			3 (15%)					3 ( 15%)
状 況	1 ( 5%)	1 ( 5%)						2 ( 10%)
サ変動詞	2 (10%)	2 (10%)						4 ( 20%)
慣用句						1 ( 5%)		1 ( 5%)
そ の 他							1 (5%)	1 ( 5%)
計	3 (15%)	6 (30%)	4 (20%)	1 (5%)	2 (10%)	3 (15%)	1 (5%)	20

【表 3】【表 4】から韓国語の A タイプ「単文中の ul/lul 格連続」は、436 例中 54 例で 12%を占めており、日本語の A タイプ「単文中のヲ格連続」(340 例中 20 例、6%) よりやや多いことがわかる。

さらに、日本語の A タイプに見られる「状況」「何ヲ」「トコロヲ」などは韓国語には見られないが、韓国語の A タイプでは、日本語の A タイプには見られない「相手」「所有」「材料」「目的」が見られる。

「N1-ul」「N2-ul」の組み合わせを比べると、韓国語の「対象-ul 相手-ul」「対象-ul 数量詞-ul」「所有-ul 対象-ul」「材料-ul 対象-ul」等は日本語には見られないタイプである。例えば、次のような例文である。

- (27) 지금 당신 쓰는 방을 나를 주구려.  
(直訳：今あなたが使う部屋を私をください)：「対象-ul 相手-ul」
- (28) 단행본을 3 백 권을 사 주어야 (안개속을 걷는 사람들)  
(直訳：単行本を3百冊を買う)：「対象-ul 数量詞-ul」
- (29) 경림은 숙영을 팔을 잡아당겼다.(작은 천사들의 분노)  
(直訳：キョンリムはスクヨンを手を引っ張った)：「所有-ul 対象-ul」
- (30) 계집애를 명필을 만들어 뭘 어찌자고 이러십니까 (미망)  
(直訳：女の子を書家を作って何をするんですか)：「材料-ul 対象-ul」

上記の例文は徐 1996 に照らし合わせてみると、(27)は [4] 与格類型、(28)は [3] 数量詞関係類型、(29)は [1] 大小関係類型、(30)は [2] 副詞語代置類型である。

上記例文(27)のように、「相手」が「ul」を取るということは、日本語では見られない例である。この場合の「相手-ul」は、次のように日本語の「に」格に相当する「-ege (에게)」に置き換えることができる。

- (31) 지금 당신 쓰는 방을 나에게 주구려  
(直訳：今あなたが使う部屋を私にください)

アンケート 1 と 2 とでは、徐 1996 の [2] 与格類型の許容度を調査した。平均許容度は次のようになる<sup>11)</sup>。(完全に許容される場合、平均許容度は 100 になり、完全に許容されない場合は 0 になる)

- (32) a 어머니는 칠수를 용돈을 주었다. (平均許容度：3)  
(直訳：お母さんはチョルスをお小遣いをあげた)  
b 어머니는 용돈을 칠수를 주었다. (平均許容度：10)  
(直訳：お母さんはお小遣いをチョルスをあげた)
- (33) a 나는 그를 선물을 주었다. (平均許容度：6)  
(直訳：私は彼をプレゼントをあげた)  
b 나는 선물을 그를 주었다. (平均許容度：19)  
(直訳：私はプレゼントを彼をあげた)



- (34) a 나를 그 방을 주구려. (平均許容度：10)  
 (直訳：私をその部屋をください)  
 b 그 방을 나를 주구려. (平均許容度：37)  
 (直訳：その部屋を私をください)

(32a) (33a) (34a)は「N1 (ヒト)-ul N2 (モノ)-ul」タイプであり、(32b) (33b) (34b)は「N2 (モノ)-ul N1 (ヒト)-ul」タイプである。(32a) (33a) (34a)は各々平均許容度が3、6、10であり、(32b) (33b) (34b)は10、19、37である。それぞれ(b)の方が許容度が明らかに高いことがわかる。基本語順である(a)より(b)の方が許容度が高いということは注目すべき結果である<sup>12</sup>。

一方、「hada」類は日本語のサ変動詞類と同様に、「N2-ul + hada」がN1を項とする他動詞相当と考えられ、他の類型とは異なる。

- (35) 친구들을 집으로 초대를 하기도 하며, (잃어버린 너)  
 (直訳：友達を家に招待をしたりもして)：「対象-ul N-ul hada」

以上のように、単文では、韓国語のul/lul格連続文と日本語のヲ格連続文はかなり異なっていることがわかる。それでは、複文ではどうであろうか。次節では、Bタイプについて見てみる。

## 5. Bタイプ：連用修飾節 ([N1-ul [N2-ul V2] V1])

Bタイプは、連用修飾節で[N1-ul [N2-ul V2] V1]のようなタイプであり、総436例中188例(43%)が見られた。韓国語のBタイプのN1, N2の組み合わせを示すと以下の【表5】のようになる。【表6】は日本語のBタイプである。

【表5】韓国語のBタイプ<sup>13</sup>

N1 \ N2	対 象	場 所	時 間	hada	その他	計
対 象	91 (48%)	6 (3%)	5 (3%)		3 (2%)	105 (56%)
場 所	3 (2%)	2 (1%)				5 (3%)
時 間	1 (1%)					1 (1%)
複合辞	67 (36%)	1 (1%)		1 (1%)	2 (1%)	71 (38%)
慣用句	6 (3%)					6 (3%)
計	168 (89%)	9 (5%)	5 (3%)	1 (1%)	5 (3%)	188

【表 6】日本語の B タイプ (文 2005b 改)

N2 \ N1	対 象	場 所	状 況	時 間	トコロラ	その他	計
対 象	96 (47%)	29 (14%)	13 (7%)	4 (2%)	4 (2%)		146 (73%)
場 所	2 (1%)	2 (1%)	3 (2%)				7 (4%)
複合辞	17 (9%)						17 (9%)
慣用句	19 (10%)	7 (4%)			2 (1%)		28 (14%)
その他						2 (1%)	2 (1%)
計	134 (67%)	38 (19%)	16 (8%)	4 (2%)	6 (3%)	2 (1%)	200

【表 5】【表 6】から、韓国語の B タイプでは、「対象-ul 対象-ul」が 188 例中 91 例で 48% を占めている。これは日本語の B タイプ（「対象ヲ対象ヲ」は 47%）の割合とそれほど変わらない。

一方、日本語では「場所ヲ対象ヲ」が 14%（29 例）を占めているが、韓国語の場合「場所-ul 対象-ul」は 3%（6 例）であり、日本語に比べ非常に少ないことがわかる。それに対して、韓国語の B タイプでは N2 が複合辞の例が 38%（71 例）で日本語に比べ非常に高い割合である。

A タイプでは、日韓両言語のヲ格・ul/lul 格連続の使用実態は異なるが、【表 5】と【表 6】を見比べると、B タイプでは若干の違いはあるものの、大きく変わらないようである。B タイプの組み合わせを示すと以下ようになる。

- (36) 해석은 의미의 이해 내용을 독자를 의식하면서 진술, 전개하는 기술이다. (문학비평론)  
 (直訳：解釈は意味の理解内容を読者を意識しながら、陳述、展開する技術である)：「対象-ul 対象-ul」
- (37) 그는 현대시의 언어로서 우리 말이 지닌 결함이 문화어의 빈곤임을 작품분석을 통해 보여준다. (1950 년대 남북한 문학)  
 (直訳：彼は現代詩の言語で我が言葉が持っている欠陥が文化語の貧困であることを作品分析を通して見せる)：「対象-ul 複合辞」
- (38) 원장과 산타 마가 계속하는 대화를, 히진은 안쪽을 기웃거리며 듣고 있었다. (여자정신대)  
 (直訳：院長とサンタマが続ける対話を、ヒジンは中をのぞきながら聞いていた)：「対象-ul 場所-ul」
- (39) 기세 좋게 타오르는 불길을 뉘을 잃고 바라보는 것이었다. (소설 흥익인간)  
 (直訳：勢いよく燃え上がる炎を氣を失って眺めるのであった)：「対象-ul 慣用句」

- (40) 일직선의 길을 그녀들은 장난을 치면서 혹은 큰 소리로 떠들면서  
힘차게 걸어갔다.(산다는 것은 길을 찾는것)  
(直訳：一直線の道を彼女たちはいたずらをしながらあるいは大声で騒ぎながら  
元気に歩いていった)：「場所-ul 対象-ul」
- (41) 장마로 불어난 무심천을 네 명의 여학생 뒤를 따라서 바지를 뚫뚫  
걸어 올리고 건넌 일이며 (산다는 것은 길을 찾는것)  
(直訳：梅雨で(水量が)増えたムシン川を四人の女子学生の後をついてズボン  
を巻き上げて渡った…)：「場所-ul 場所-ul」
- (42) 나는 한참을 눈을 감은 채 그 행위를 즐기고 있었다.(겨울속의겨울)  
(直訳：私はしばらくの間を目をつぶったままその行為を楽しんでいた)：「時  
間-ul 対象-ul」

ここで、韓国語の単文 100 例中の ul/lul 格の出現率がどうなっているかを見てみたい。  
次の【表 7】は Hankyoreh 新聞 (Internet 版 (www.hani.co.kr)) の 2005 年 11 月 30 日の  
記事を調査した結果である。

【表 7】 単文 100 例中の ul/lul 格

ul/lul	例文	%
対 象	88 例	88%
場 所	1 例	1%
複合辞	4 例	4%
慣用句	1 例	1%
hada	6 例	6%
計	100 例	100%

【表 7】 から見ると、単文での「対象-ul」の出現率は 88% であり、複文で「対象-ul 対  
象-ul」が現れる出現予測値は 77% であるが<sup>14</sup>、複文の B タイプでは「対象-ul 対象-ul」  
が 41% である。これは予測値より非常に低い数値である。一方、「場所-ul 対象-ul」の出  
現予測値は 0.88% であるが、実際は 3% (6 例) で予測値より高い。韓国語の B タイプ  
で「対象-ul 対象-ul」が出現予測値より非常に低いこと、「場所-ul 対象-ul」が出現予測値  
より高いことは、日本語の B タイプと同様の結果であることに注目したい。

文 2005b では、単文中の対象ヲ格の出現頻度を調査し、93% という数値を得た。複文  
中の主節の述部と従属節の述部にヲ格がまったく同様の比率で現れるとした場合、「対象  
ヲ対象ヲ」の出現の予測値 (93% × 93%) は 86% であるが、実際は 47% であり、予測  
値よりかなり低い数値であった。よって、日本語では、単文だけでなく複文であっても  
ヲ格連続は避けられるということが確認できた。

以上の結果から、これまで、「二重ヲ格制約」は一つの動詞がヲ格を一つしか取ることができないという制約であると言われてきたが、二つ以上の対象ヲ格を許容するはずの複文であっても、対象ヲ格の連続が避けられる傾向にあるということが明らかになった。その理由は、文構造の上で許されても文解釈に支障をきたすからであろうと考えられる。このような考察に基づいて、文 2005b では、日本語のヲ格連続を考える際、文構造だけでなく情報構造から考えなければならないことを指摘した。

また、今回の調査で、韓国語においても、複文であれば自由に出現するはずの「対象-ul 対象-ul」の出現率が41%で、出現予測値(77%)より非常に低いということが確認できた。これは、韓国語の ul/lul 格連続を考える際、日本語と同様に、文構造だけでなく、情報構造の視点からも考えなければならないことを示唆している。

## 6. まとめ及び今後の課題

本稿の調査結果をまとめると次のようになる。

- I 先行研究ではまったく自由だと言われてきた、韓国語の単文中の ul/lul 格連続についてアンケート調査を行った結果、先行研究で言われているほど自由ではないことが確認できた<sup>15</sup>。
- II 一方で、コーパスから見ると、韓国語の ul/lul 格連続は、日本語に比べて、単文中でも相当数現れることが確認できた。
- III しかし、複文の場合、日韓両言語では同様の傾向が見られた。すなわち、韓国語でも複文であれば、自由に現れるはずの「対象-ul 対象-ul」の組み合わせは、出現予測値より非常に低いことが確認できた。これは、韓国語の B タイプが日本語の B タイプと同様に、複文であるにもかかわらず、「対象-ul」の連続が避けられる傾向にあることを示している。これはつまり、日本語と同様に、韓国語でも「対象-ul」の出現を妨げるある種の働きが作用していることの証拠であると思われる。韓国語の ul/lul 格連続においても、文構造の側面から分析するだけでなく、情報構造から分析すべきであることを示唆しているのである。

本稿では、コーパスによる韓国語の ul/lul 格連続の実態を提示するにとどまった。韓国語の単文中の ul/lul 格連続の各類型に関する詳しい分析、及び数量詞構文に関する日韓対照は今後の課題としたい。

### 注

- 1 前に来る名詞が母音で終わる時は「lul (ㄹㄹ)」を、子音で終わる時は「ul (ㅇㄹ)」を使う。
- 2 韓国語の「hada」は日本語の「する(サ変動詞)」に対応する。
- 3 徐1996では、上記例文(9)は次のように置き換えられると述べている。  
(i) 아이가 고기를 열마리만 잡았다. (直訳: 子供が魚を10匹ほど捕った)  
しかし、(9)は「魚を9匹でも11匹でもなく10匹捕った」という意味であるが、(i)では、9匹でも11匹でもよくなるという意味の差がある。

- 4 本調査では、「名詞+ ul/lul」という表層的な連続を採集の基準にした。
- 5 パーセンテージは小数点以下を四捨五入で表す。
- 6 日本語は、新潮文庫 100 冊 CD-ROM 版（明治生まれ以降の作家 38 人の 69 作品）、朝日新聞 1991 年の天声人語・社説、毎日新聞 2000 年 5 月の記事を調査した。
- 7 ちなみに、E タイプの並列を外すと次のような比率になる。

《韓国語の ul/lul 格連続文のタイプ》

文のタイプ		例文	%
A	N1-ulN2-ulV	54	17%
B	[N1-ul [N2-ul V2] V1]	188	59%
C	[N1-ul[ [N2-ul V2]N3] V1]	65	20%
D	N1-ul[N2-ulV2] (la) ko V1	13	4%
計		320	100%

《日本語のヲ格連続文のタイプ》

文のタイプ		例文	%
A	N1ヲN2ヲV1	20	6%
B	[N1ヲ [N2ヲV2] V1]	200	64%
C	[N1ヲ [ [N2ヲV2]N3] V1]	67	22%
D	[N1ヲ [N2ヲV2]とV1]	24	8%
計		311	100%

- 8 韓国語の「-(la) ko」は日本語の引用の「と」に対応する。
- 9 A タイプの「数量詞」と「時間」は区別が難しいが、「時間」は「数量詞」よりも語順交替が自由である。例えば、「時間-ul」は次のような語順交替ができる。
  - (i) a 일주일동안을 아부진 바다를 해마다가 (一週間をお父さんは海をさまよい)
  - b 아부진 일주일동안을 바다를 해마다가 (お父さんは一週間を海をさまよい)
  - c 아부진 바다를 일주일동안을 해마다가 (お父さんは海を一週間をさまよい)
- 10 「hada」は、日本語の「サ変動詞」に相当する。【表 3】では、「hada」だけではなく、動詞句の中に ul/lulが入っている例も含めている。例えば、「끝맷다 (kkeutmaetda)」が「끝을 맷다 kkeut-ul maetda」のように使われているものも便宜上「hada」の用例として数えている。
- 11 平均許容度は「{(自然×2) + (やや不自然×1)} ÷ 2」で計算している。
- 12 一般的に「ヒト-ga ヒト-egeモノ-lul ju-da (ヒトがヒトにモノをあげる)」が基本語順である。ul/lul格連続になると、なぜ (b) の方が許容度が高くなるのかについては今後の課題としたい。
- 13 複合辞とは、「-ul tonghae (-을 통해:~を通して)」のような形式である。韓国語では、複合辞として分類されていないが、本稿では、韓国語の「-ul tonghae」等が日本語の「~を通して」等と同様の働きをしていることから、便宜上「複合辞」とする。
- 14 出現予測値は、「対象 ul の出現率×対象 ul の出現率」で計算している。
- 15 当然認められていないはずの ul/lul 格連続が、実際の口頭調査及びアンケート調査では許容されないと答えた韓国語母語話者が少なくなかった。それに関して、演習・ゼミなどでいろいろな意見があったが、許宰碩氏から韓国語でも地域差があるのではないかという指摘をいただいた。地域差については別稿を準備している。

## 参考文献

- 金기혁 1995 『국어 문법 연구-형태·통어론-』 박이정
- 金榮敏 1997 「日韓兩言語のいわゆる対格助詞「ヲ」と「ul/lul」(을/를)について」『筑波応用言語学研究』  
4 筑波大学文芸・言語研究科応用言語学コース
- 1999 「日韓兩言語の輕動詞構文をめぐって」『筑波応用言語学研究』6 筑波大学文芸・言語研究科  
応用言語学コース
- 金승곤 1988 「자리토씨의 이름에 대한 한 고찰」『한글』 199 한글학회
- 金영희 1999 「보족어와 격표지」『한글』 244 한글학회
- 南기심 1996 『국어 문법의 탐구 I-국어 통사론의 문제-』 태학사
- 2001 『현대 국어 통사론』 태학사
- 柳구상 1999 「국어조사{를}에 대한 연구」『국어국문학』 102 国語国文学会
- 文智暎 2005a 「文の理解と語順—ヲ格連続を中心に」『筑波日本語研究』 10 筑波大学人文社会科学研究科  
日本語学研究室
- 2005b 「ヲ格連続について—主節のヲ格と連用節のヲ格を中心に—」『日本学報』 65 韓国日本学会
- 徐정수 1996 「수정정보판 국어문법」 한양대학교 출판원
- 成光秀 1999 『격표현과 조사의 의미』 도서출판 월인
- 손인호 1995 「국어조사 을/를의 실현조건」『한글』 228 한글학회
- 申鉉淑 1982 「목적격표지/를/의 의미연구」『언어』 7-1 言語学会
- 유페림 1995 「격조사의 비격조사화에 관한 연구」『한글』 227 한글학회
- 李珖鎭 1988 『国語格助詞‘을/를’의 연구』 탐출판사
- 이운표 1999 「국어의 이중목적어에 관한 소고」『국어의 격과 조사』 한국어학회
- 任洪彬 1979 「{을/를} 조사의 의미와 통사」『한국어 논총』 2 권 국민대학교 한국학연구소
- 1998 『국어문법의 심층 2』 태학사
- 井上和子 1978 『日本語の文法規則』大修館書店
- 奥津敬一郎 1996 『拾遺 日本文法論』ひつじ書房
- 野田尚史 1996 『「は」と「が」』くろしお出版
- 村木新次郎 1991 『日本語動詞の諸相』ひつじ書房

(ムン जीヨン 筑波大学大学院博士課程 人文社会科学研究科 日本語学)